

121211 氷漬けの植物...

岩の間を流れる渓流を見ていると、キラキラ輝くものに気づきました。

そうです、「氷柱」(つらら)です！

ただでさえ寒い中、このようなものを見ると“寒さ倍増”という感じです。

とは言え、やはり“自然の造形美”には魅せられてしまいますね...

細長い円錐形が美しい透明な氷柱、よく観察するとそれだけではなく、岩肌から垂れ下がる植物の葉や根を覆い包んでいるような形状の氷もありました。

そして、小さな「滝」のように水が落ちている場所の周辺では...

落ちた水の飛び散る範囲に、いろいろな変わった形の氷を見つけることができたのです！

写真 : 氷柱 (つらら)

岩肌を伝って集まった水が、滴(したた)り落ちながら凍る、このような現象を繰り返して、徐々に長い「氷柱」に成長するのでしょうか。

右側に見えるのは、流下する渓流水です。

写真 : 変形した氷柱??

先ほどの氷柱と違って、こちらは氷の中に何かが入っているようです。

よく見ると、中にあるのは植物の葉や茎、根のようです。

垂直に落下する滴(しずく)が凍った「氷柱」とは違って、垂れ下がった植物体を伝って滴り落ちながら凍る、という現象を繰り返してこのような形に成長したのでしょうか。

写真 : 小さな「滝」の周辺では...

水が飛び散る範囲には、いろいろな変わった形の氷を見ることができます。

写真 ・ : 氷に覆われた植物...

植物の形状に沿って、何とも不思議な形の氷ができています。

ところで、写真 や の氷はどのようにしてできたのでしょうか？

「樹氷」や「霧氷」という言葉は聞いたことがありますが、「雨氷」(うひょう)という現象もあるようで、0 以下の過冷却の雨滴が樹木や地面などに付着してできる、硬くて透明な氷のことだそうです。

このことから推測するに、0 以下に下がった渓流水が、滝を落下して地面にぶつかった際に飛び散り、その水滴が植物体に付着した衝撃で瞬時に凍りついた、このような現象を繰り返した結果、植物体の形状に合わせて覆い尽くすように成長した、ということではないでしょうか。









